

ご挨拶



市営バス事業の終了によせて

熊本市長 大西 一史

平成 27 年 3 月 31 日、市営バス事業は、事業開始から 88 年の歴史に幕をおろしました。

まずは、これまでご利用いただきました市民の皆様と市営バス事業の発展にご尽力いただきました先人達、並びに関係者の皆様に対しまして、改めて深く感謝申し上げます。

振り返りますと、市営バス事業は、本市交通事業の幕開けとなった路面電車に続く、市民の皆様の重要な移動手段として、昭和 2 年 11 月 23 日に産声を上げました。以来、市民サービスの更なる向上のため、事業を拡大し、昭和 40 年代には、路線数 34 路線、利用者数は年間 3,900 万人と最盛期を迎えるなど、本市公共交通の重要な担い手として、その使命と役割を果たしてまいりました。

しかしながら、その後は、モータリゼーションの進展などによる利用者数の減少や社会経済情勢の変動による影響などから、全国的にバス事業者は厳しい経営環境下におかれていきました。

このような中、本市では、より利便性が高く効率的な運行体制の確立に向け、バス路線網再編の中心的な役割を担う目的で設立された熊本市バス株式会社への路線移譲を進めてまいり、その移譲完了とともに、市営バス事業の終了を迎えた次第であります。

今後は、この市営バス事業の終了をバス路線網再編の大きな契機と位置づけ、さらに地域公共交通政策の推進に取り組むことで、加速する少子高齢化や本格的な人口減少社会の到来などの社会経済情勢の変化に対応できる、持続可能で創造的な多核連携のまちづくりを実現してまいりますので、皆様には、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、長年にわたり市営バスをお支えいただいた市民の皆様と関係各位に対しまして心から感謝申し上げます、ご挨拶いたします。

平成 27 年 9 月



市営バス事業終了記念誌の 発刊によせて

熊本市議会議長 満 永 寿 博

市営バス事業終了記念誌「熊本市営バス 88 年のあゆみ」の発刊を心からお喜び申し上げます。

市営バスは、昭和 2 年に運行を開始して以来、輸送人員は約 13 億人、走行距離では地球約 9,500 周走行したことになると伺っており、その果たしてきた役割は大変大きかったものと感じ入る次第でございます。

今日に至るまでの間、バス事業の経営は必ずしも順風満帆ではなく、紆余曲折を経ながら、徹底した経営の効率化を図ってこられた歴史でもあったかと存じます。これまでの関係者各位のご尽力に対しまして、心から敬意を表します。

さて、地方創生元年と称される本年、深刻化する人口減少社会を迎える中、持続可能で創造的な都市づくりを目指し、本市は中心市街地の再開発やコンパクトシティの形成などに取り組んでおりますが、より効率的で利便性の高い公共交通体系の確立は、市民の生活にとって不可欠なものであり、きわめて重要であると考えております。

市営バス事業は熊本都市バス株式会社に全て移管されましたが、今後、熊本都市圏における利便性の高いバス路線網の再編が進み、利用者にとってより利便性の高い公共交通体系が確立されることを切に願っております。

市議会といたしましても、誰もが生き生きと暮らせる熊本市実現のため、最大限の支援をしてまいります所存でございます。

最後になりましたが、本市公共交通の中核をなしてきた市営バスを 88 年の長きにわたり支えてこられました関係各位、そして地域の皆様方に心から感謝申し上げます。

平成 27 年 9 月

記念誌の発刊にあたって

昭和2年（1927年）11月に開業した市営バス事業が、平成27年（2015年）3月末をもって88年の長きにわたる歴史に幕を下ろすに至り、ここに記念誌を発刊する運びとなりました。

この間、ご利用いただいた市民の皆様、そして多大なるご支援を賜りました関係各位に深く感謝申し上げます。

市営バスは、市当局や議会をはじめ関係機関各位のご支援を賜りながら、本市における生活交通の担い手として日夜走り続けてまいりました。

しかし今日、バス事業を取り巻く経営環境は極めて厳しい局面を迎えており、また一方で、加速度的に進展する少子高齢社会における公共交通の果たすべき役割は極めて重要性を増しております。そのような中、利便性が高く効率的なバス路線網の再編をはじめ将来にわたり持続可能な公共交通を構築していく観点から市営バス事業の熊本都市バス㈱への移譲を順次進めてまいりました。

それが完了しました今、わかりやすく利便性の高いバス路線網の再編に向けた関係機関のお取り組みが今後一層進展していくことを期待しています。

市営バス事業が、これまで残した足跡と88年間の感謝の気持ちを心に刻み、本市における重要な公共交通の基軸をなしている市電の利便性の向上に努めながら、すべての人が利用しやすい地域公共交通の構築につながるよう、その使命と役割を果たしていかなければならないと考えております。

熊本の街なかを走り続けてきた市営バスの往時を偲びつつ、長い間ご利用いただいたお客様各位に心から感謝申し上げます、記念誌発刊にあたってのご挨拶といたします。

平成27年9月

熊本市交通事業管理者 **西本 賢正**